



# Bーぐる沿線協議会ニュース

第1号

平成22年11月発行 Bーぐる沿線協議会事務局 文京区区民課コミュニティバス担当 03-5803-1387

## Bーぐる沿線協議会が発足しました

平成22年10月26日、文京区コミュニティバスBーぐるの利用促進と安定的な運営に向け、Bーぐる沿線協議会の第1回会合が開催されました。

Bーぐるは、平成19年4月26日の運行開始から3年半が経過し、昨年度は約51万人の利用があるなど、区民の日常の足としてすっかり定着してきました。

これを受けてBーぐる沿線協議会は、地域組織・バス運行事業者・文京区の三者がそれぞれの役割を担い、協働による運行を実現するための協力組織として設置されたもので、「Bーぐる」をいっそう利用しやすくし、安定的に運営していくことを目指しています。

Bーぐる沿線協議会は、元田良孝岩手県立大学総合政策学部教授を会長に、区内関係団体、協賛企業、

公募委員、バス事業者等の20名のメンバーからなり、会議の中で関心の高いテーマに対しては分科会を設置し、深く掘り下げた検討も予定しています。

### Bーぐる沿線協議会の構成（全20名）

- 地区町会連合会 7名
- 商店街連合会 1名
- 観光協会 1名
- 高齢者クラブ連合会 1名
- 東京商工会議所文京支部 1名
- 協賛企業 2名
- Bーぐるに関し調査研究等の実績がある区民 1名
- Bーぐるを利用している公募委員 3名
- バス運行事業者 1名
- 学識経験者 1名
- 区職員 1名

## 元田会長がミニ講演 ～コミュニティバスを取り巻く状況～

会議の冒頭、元田会長からコミュニティバスが誕生した背景や目的、他区との比較から文京区のコミュニティバス事業の状況等に関するミニ講演がありました。以下はその要旨です。

### 見直されるバスの存在

日本初のコミュニティバスは平成7年11月に誕生した武蔵野市の「ムーバス」です。昭和43年をピークに乗合バスの利用者は減少の一途をたどっていましたが、自動車の運転が困難な高齢者の増加やバリアフリー社会、環境負荷が小さい交通、道路運送法の改正による規制緩和等が追い風となり、コミュニティバスという形で再びバスが注目されるようになりました。「ムーバス」の成功をきっかけに全国の約半数の自治体でコミュニティバスが導入され

ています。

### 一路線あたりの利用はBーぐるが最多

東京23区では、文京区を含め15区でコミュニティバスが導入されており、残りの多くの区でも導入が検討されています。

多くの区でコミュニティバスが導入された大きな目的は「公共交通不便地域の解消」が共通しており、このほかに「区内交通ネットワーク」や「福祉の充実」を目的としている区もあります。現在、文京区のBーぐるは1路線のみですが、残りの区はすべて複数路線を導入しており、中には足立区のように12路線を有する区もあります。

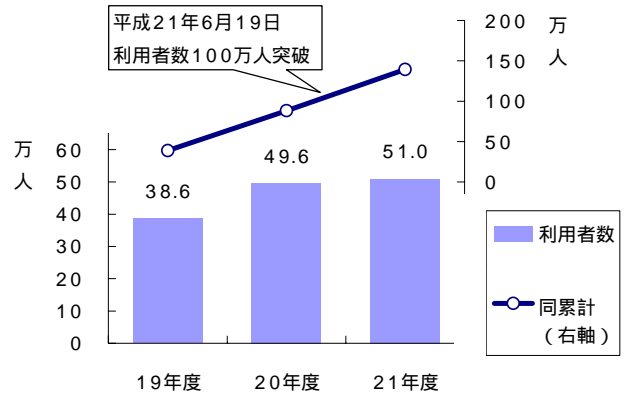
Bーぐるは年間51万人(一日あたり1,395人)が利用しており、1路線あたりの利用者数は全15

区の中でもっとも多くなっています。

こうした背景には、文京区独自の取り組みがあります。協力店で一日券や回数券を提示すると特典が受けられる「+ワン！」サービスや平成20年度に設置された「Bーぐる研究会」の活動をもとに白山下バス停の乗り換え改善が実現するなど、官民協働によるコミュニティバスの運営を目指す姿勢が、利用者の増加につながっています。

## <コラム> B ーぐる利用者数の推移

B ーぐるの利用者は開業2年2ヶ月で100万人を突破しました。



## 「もっと便利に もっと身近に」をテーマに活発な意見

区民にとって、「Bーぐるをもっと便利にするために、もっと身近にしていくために、私たちができることは何か」をテーマに各委員から積極的な意見が出されました。

今後は各委員が情報を持ち寄り、これらの意見をさらに深めていくことから始めることを確認し、閉会となりました。

### 各委員の抱負やB ーぐるに関する意見

- 個人的によく利用しているので、愛着を感じている。
- 文京区から三鷹市に転居したばかり。ムーバスとの比較、外からの目、若い利用者の立場で何か役に立ちたい。
- 他区のコミュニティバスとの比較からB ーぐるをみてみたい。
- キャラクターの「びい」がかわいい。
- 白山下の乗り継ぎ改善はB ーぐる研究会の成果。今回も即効性のあるプランができればよいと思う。
- シビックホール等のイベント時に積み残しが出ている。需要に応じた弾力的なダイヤや臨時便で対応してほしい。
- 入口付近や車内が狭いなど、バス車両に不満がある。ベビーカーや車いすを利用する人への配慮なども必要
- 逆回りルートの実現
- 子ども運賃(半額)の導入

### B ーぐるの利用促進に向けた意見

- 沿線の観光資源やイベントを地図に入れるなど、B ーぐると沿線地域の商店街が連携した取り組み
- 文京区在住の外国人(とくにアジア系)への情報提供を充実させる。B ーぐるマップの多言語化
- 各種割引制度や特典情報を含めた認知度のUP
- フォトコンテスト(B ーぐるの走る風景)や限定クーポン付きの沿線ニュースの発行
- 東京ドームホテルに宿泊している外国人をB ーぐるを利用して谷根千へ案内する。
- 隣接区(台東区、北区)のコミュニティバスと相互案内して利用促進を図る。
- 台東区のめぐりんと比べれば、B ーぐるはもっと活用できる。新しい動きに期待したい。
- コミュニティバスなのだからコミュニティの形成につながる提案をしていきたい。

### 編集後記

今回集まったメンバーはいずれも、B ーぐるをよく利用している、よく知っている方ばかりということもあり、B ーぐるをよくしていきたいという熱意が伝わってきました。初回から「外国語版のB ーぐるマップの発行」といった具体的な提案が出されるなど、今後の展開に大いに期待が持てそうです。こうした雰囲気がよく伝えられるよう、次号からは写真や図を入れた見やすい紙面でお届けしたいと思います。(N)